

2012年3月期 期末 決算報告

2012年5月7日
株式会社クレスコ
経営企画室

1. 期末決算のポイント

[単位:百万円未満切捨]

1.1. 決算のトピックス

[連結](#)

▶ 連結経営成績に関する主な事項

- ⊕ 売上高 … 172億71百万円 (前年同期比 9.9%増)
- ⊕ 営業利益 … 10億30百万円 (前年同期比 25.2%増)

ソフトウェア 開発事業	金融・保険分野	銀行及び保険業の案件が増加 前年同期を12億6百万円上回り、69億87百万円(前年同期比20.9%増)
	公共・サービス分野	前年同期を6億96百万円上回り、45億77百万円(前年同期比17.9%増)
	流通・その他の分野	前年同期を1億17百万円下回り、27億32百万円(前年同期比4.1%減)
組込型 ソフトウェア 開発事業	通信システム分野	通信端末の開発案件が減少 前年同期を1億85百万円下回り、7億80百万円(前年同期比19.2%減)
	カーエレクトロニクス分野	車載関連の案件が減少 前年同期を4億83百万円下回り、12億35百万円(前年同期比28.1%減)
	情報家電等・その他の分野	前年同期を4億22百万円上回り、8億32百万円(前年同期比103.2%増)
商品・製品販売		前年同期を10百万円上回り、1億25百万円(前年同期比9.0%増)

▶ 連結財政状態に関する主な事項

- ⊕ 総資産 … 124億12百万円 (前期末比7億14百万円増)
- ⊕ 自己資本比率 … 61.6% (前年度末 65.4%)

1. 期末決算のポイント

1.2. 通期の振り返り

単体

全般傾向

景況感は、自然災害や経済現象の影響を受け、決して良好とはいえない状況であったが、開発案件の引き合いは着実に増加傾向にあり、受注および開発要員の稼働率も順調に推移した。サービスビジネス事業は、新サービスの販売に注力するも、採算ラインに届かず。

課題

営業およびプロモーション活動の強化

組込ソリューション事業の拡大

サービスビジネス事業の見直し

1. 期末決算のポイント

1.3. 通期の振り返り

子会社

	<p>クレスコ・ イーソリューション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SAP関連のコンサルティングおよび開発案件が伸張したほか、ソリューション事業も堅調 ・人材採用と育成が課題
	<p>ワイヤレス テクノロジー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Bluetooth関連製品の受注時期のずれ込み等が発生 ・量産案件の受注、自社製品の差別化が課題
	<p>クレスコ・ コミュニケーションズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄関連事業、ネット監視事業の立て直しが課題 ・その他SIおよびコンサルティング案件の受注に注力
	<p>クレスコ・アイディー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティロッカー等、RFID関連製品の受注が不振 ・新たにNFC関連サービスを展開中
	<p>アイオス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規受注不足による要員稼働率低下 ・グループ連携による営業活動の強化に注力
	<p>クレスコ九州 (旧 インフィニード)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地場顧客の開拓とニアショア拠点化が課題 ・グループ連携による営業活動の強化に注力

【注】「インフィニード」は、2012年4月1日に「クレスコ九州」へと社名変更いたしました。

2.1. 損益計算書 [要約]

連結

[単位:百万円未満切捨]

	2011年3月期 期末 ＜実績＞	2012年3月期 期末 ＜実績＞	前年 同期比	2012年3月期 通期 ＜2012/4/23公表＞
売上高	15,721	17,271	109.9%	17,270
売上総利益	2,453 (15.6%)	2,800 (16.2%)	114.1%	2,800 (16.2%)
営業利益	823 (5.2%)	1,030 (6.0%)	125.2%	1,030 (6.0%)
経常利益	1,051 (6.7%)	1,174 (6.8%)	111.7%	1,170 (6.8%)
当期純利益	613 (3.9%)	444 (2.6%)	72.5%	440 (2.5%)
EPS 円/株	52.20	40.46	—	40.76

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

【注】 当社の持ち分法適用会社は「株式会社ウェイン」「株式会社アプレッソ」「ビュルガーコンサルティング株式会社」の3社です。

2. 財務経営成績 等

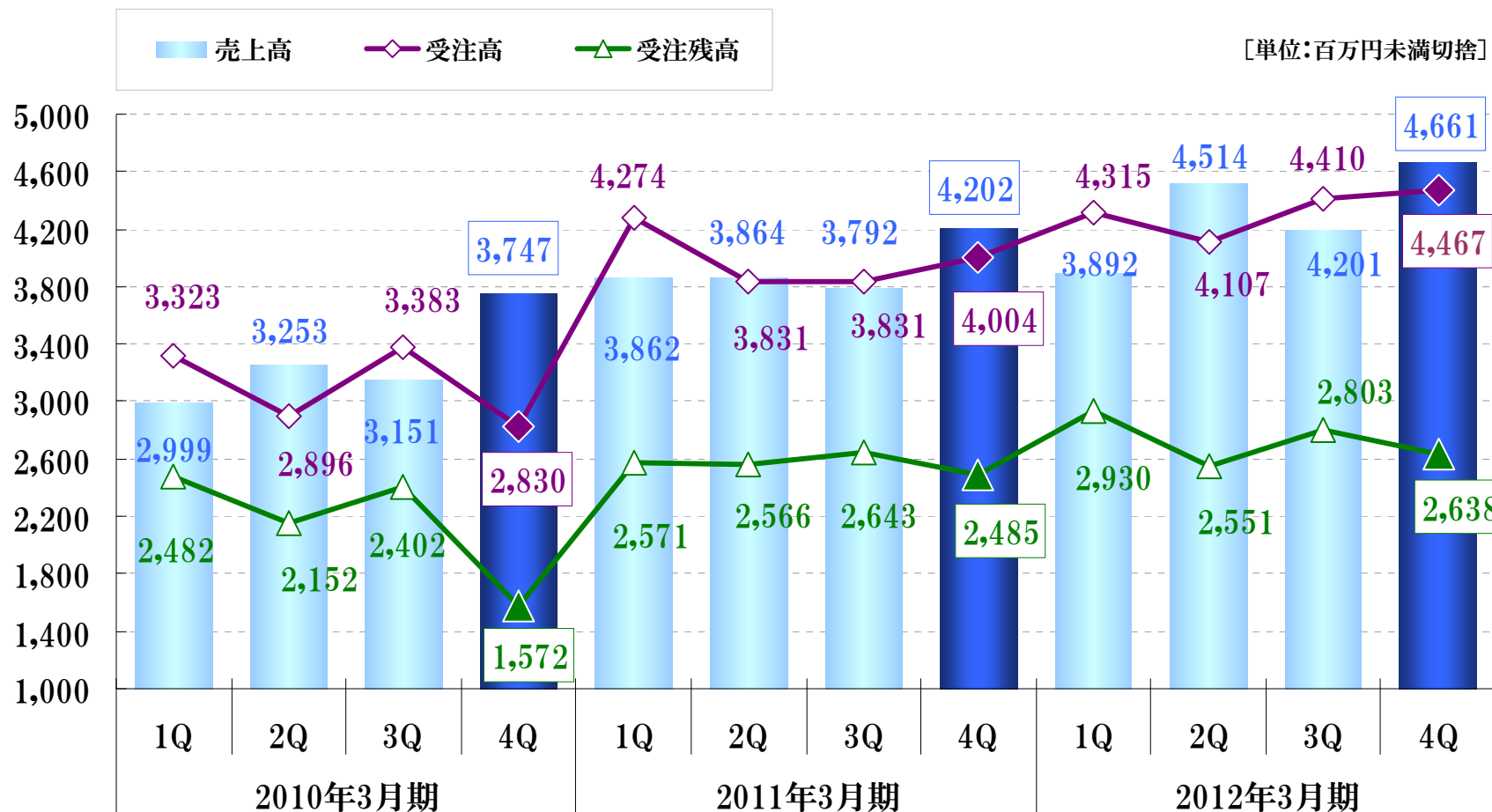
2.2. セグメント売上高の比較 連結

[単位：百万円未満切捨]

大区分	セグメント 小区分	2011年3月期 期末	2012年3月期 期末	増減	増減率
ソフトウェア	金融関連	5,780	6,987	1,206	20.9%
	公共・サービス	3,881	4,577	696	17.9%
	流通・その他	2,850	2,732	▲117	▲4.1%
	計	12,511	14,297	1,785	14.3%
組込型 ソフトウェア	通信システム	966	780	▲185	▲19.2%
	カーエレクトロニクス	1,718	1,235	▲483	▲28.1%
	その他	409	832	422	103.2%
	計	3,094	2,848	▲246	▲8.0%
商品・製品販売		115	125	10	9.0%
全計		15,721	17,271	1,549	9.9%

2.3. 売上高・受注高・受注残高の推移

連結



2.4. 損益計算書 [要約]

単体

[単位:百万円未満切捨]

	2011年3月期 期末 ＜実績＞	2012年3月期 期末 ＜実績＞	前年 同期比	2012年3月期 通期 ＜2012/4/23公表＞
売上高	11,138	12,251	110.0%	12,250
売上総利益	1,591 (14.3%)	1,964 (16.0%)	123.5%	1,960 (16.0%)
営業利益	634 (5.7%)	906 (7.4%)	142.7%	900 (7.3%)
経常利益	787 (7.1%)	1,079 (8.8%)	137.2%	1,080 (8.8%)
当期純利益	404 (3.6%)	410 (3.3%)	101.5%	410 (3.3%)

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

2. 財務経営成績 等

2.5. 損益計算書 [要約]①

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・イー・ソリューション [資本金: 200]		 ワイヤレステクノロジー [資本金: 50]		 クレスコ・コミュニケーションズ [資本金: 50]	
	2011年3月期 期末	2012年3月期 期末	2011年3月期 期末	2012年3月期 期末	2011年3月期 期末	2012年3月期 期末
売上高	1,371	1,351	135	154	207	145
売上総利益	222	290	37	32	64	37
営業利益	81	116	18	9	14	▲14
経常利益	93	118	18	9	14	▲13
当期純利益	49	62	10	6	9	▲8
持分比率	100.0%	100.0%	87.5%	87.5%	86.0%	86.0%

2. 財務経営成績 等

2.5. 損益計算書 [要約]②

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・アイディー [資本金: 100]		 アイオス [資本金: 313]		 クレスコ九州 (旧 インフィニード) [資本金: 17]	
	2011年3月期 期末	2012年3月期 期末	2011年3月期 期末	2012年3月期 期末	2011年3月期 期末	2012年3月期 期末
売上高	-	25	2,738	3,274	142	169
売上総利益	-	0	512	447	9	22
営業利益	-	▲45	133	80	▲6	▲2
経常利益	-	▲45	155	89	1	▲1
当期純利益	-	▲48	108	33	▲2	0
持分比率	-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【注】「クレスコ・アイディー」は2011年4月5日に設立しております。

【注】「インフィニード」は、2012年4月1日に「クレスコ九州」へと社名変更いたしました。

3.1. 基本方針

顧客創造
顧客創造

3.2. 重点施策

- ▶ **営業部門の拡充**
営業専任者の増員、営業統括部の設置
- ▶ **グループ本部の設置**
グループ戦略、営業活動・広報活動支援、コンプライアンス強化
- ▶ **擬似カンパニー制の強化**
営業利益ベースでの業績評価、部門裁量の拡大
- ▶ **政策予算の確保**
人材採用、開発支援、グループ活動強化等
- ▶ **モバイルへの取組み**
スマートデバイス等、新メディアへの積極対応

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など①

1 経営環境

当連結会計年度(平成23年4月1日～平成24年3月31日)の経営環境は、上半期は東日本大震災の影響で、設備投資や消費に対する閉塞感が拭えないまま推移いたしました。下半期に入り、政府の経済対策等により景気は改善傾向となりましたが、欧州の債務問題や超円高、タイの洪水、原油価格高騰等の影響を受けて、持ち直しのペースは緩やかに推移いたしました。

このように、

当社企業グループを取り巻く経営環境は、自然災害や経済現象により不透明感が強いものでしたが、国内のIT需要は、積極的な姿勢に変化してきたと実感しております。

2 今後の見通し

平成24年は、企業業績の改善に伴い、多くのユーザ企業に内在する老朽化したシステムの更改やクラウドやスマートデバイスを利活用した更なる収益向上に資する新規システム開発需要が見込まれており、新たなビジネスチャンスの到来と認識しております。

また、震災以降、高まってきたビジネスプロセスの見直しや節電・事業継続計画を含む災害対策への意識は、新たな大地震の発生可能性や原子力発電所の再稼働問題等を背景に、更に変化する様相を呈しております。

一方、急激に進むグローバル化や事業再編の動きは、更に拍車がかかっており、国境や業際を越えたビジネスモデルの変化への対応が当社企業グループの今後の成長機会になると確信しております。

3. ビジョンと戦略

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など②

3 「ソラン北陸株式会社」を完全子会社化

2012年4月1日付にて、全株式を取得し、完全子会社化いたしました。
同社はコンサルティングからシステム開発、情報セキュリティサービス、パッケージ販売など、幅広い事業領域を有し、地域に密着したITソリューションサービスを提供しております。
今回の株式取得は、サービスメニューの強化と営業拠点の拡大に寄与し、企業価値の更なる向上に資するものと考えております。
今後もグループ各社の持つ販売チャネル、テクノロジーを活かし、お客様のコアビジネスをサポートする付加価値の高いソリューションサービスを実現するとともに、グループ各社の連携を密に、その総合力を発揮してビジネスの拡大にチャレンジしてまいります。

4 株主還元方針

株主還元方針といたしましては、何よりも業績に裏付けられた適正な利益配当に重点をおいており、特段の株主優待は行っておりません。
なお、配当に関しましては、当社の経常利益を基に特別損益を零(ゼロ)とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業績や結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。